

広野道子
21LADY社長

5年以内に10ブランド、年商1000億円が目標

洋菓子の「ヒロタ」を再建 「スゴ腕社長」の成功方程式

最近、女性社長が書いたものとしては異色といえる本が、書店の店頭で並んでいる。タイトルは『ダイエーを私に売ってください』（徳間書店）。産業再生機構入りし、林文子会長兼CEO、樋口泰行社長兼CEOの下で再建途上にある、あのダイエーである。もともと、本の内容は、序章こそダイエーの問題に触れているが、それ以外は著者で21LADYの社長である広野道子の生き方やキャリアアップ、経営の考え方を綴ったもの。ただ、タイトルが刺激的なだけに、この本はダイエー関係者の間でも大きな反響を呼んだようだ。当の広野はこう言う。

「もともと、ダイエーさんのOBの方はたくさん知ってるんです。ウチと加ト吉さんと経営している、グループ会社のハブ（英国風、パブチェーン。元はダイエーグループ。現在は加ト吉が筆頭株主、21LADYは二位株主。二〇〇六年四月にヘラクレス市場に株式上場）との関係もありますし、ヒロタ（シニークリームで

有名な洋菓子の老舗）はダイエーさんとも取引がありますから」

「ダイエーを私に売ってください」と述懐しているほどだ。が、ヒロタというブランドは広く認知されており、店舗のロケーションも優れたところが多い。組織の在り方や人事、戦略を変えれば再生できるはず——広野

が、経営破綻したほどだから、ヒロタの財務諸表は傷んでいる。広野自身、「経営数字だけ見ていたら買収には及び腰になったと思う」と述懐しているほどだ。が、ヒロタというブランドは広く認知されており、店舗のロケーションも優れたところが多い。組織の在り方や人事、戦略を変えれば再生できるはず——広野



広野道子（ひろの・みちこ） 1961年生まれ。京都府出身。85年関西学院大学文学部卒業。ベンチャー・リンクを経てブラザグリエイトに転じ、ポッカクリエイト専務などを歴任。2000年3月、21LADY.COM（現21LADY）を創業。破綻した洋菓子のヒロタを買収、社長に就いてみごと再生を果たす。04年10月名証セントレックス市場に株式上場。

1.2000年2 ライフスタイル産業の企業再生 3.売上高40億円（06年3月期） 4.http://www.21lady.com

「一言で言えば、女性の視点、もつといえは『プロの消費者』といえる、現場のお店で働くパートやアルバイトの女性の意見をよく聞き、店長など、活躍してもらええるポストを用意したんです。ヒロタに限りませんが、一定のブランドがあるのに会社が傾いたところは、大半が、典型的な古い『男社会』の組織です。逆に言えば、そういうところほど再生のチャンスが埋もれていて、宝の山ともいえます。特に消費関連産業は女性が主役なわけですから、女性を最大限活用し、女性中心の組織にしていけば、傾いた会社でも間違いなく再生できますよ」

「創業から五年以内に上場しよう」と、当初から思っていました。やはり、（銀行からの借り入れでなく）直接金融のほうに行かないと事業再生ビジネスなんてできませんから」

「でも、ハブを買うにあたってウチの提示額は一株八万円、加ト吉さんは一千万円で勝ち目が無い。そこで、ある証券会社を介して加藤さんに面会のアポイントを入れていただき、加ト吉さんの本社（香川県・観音寺市）まですっ飛んでいったんです。加藤さんはその時が初対面でした」

「そんな広野がチャンスを窺っている案件の目玉は「銀行」らしい。「預金金利がこれほど超低利のままなんて、海外では聞いたことがありません。預金者にはゼロ金利を強いながら、一方で自分たちの不良債権は処理していくなんて間違ってますよ。信金は株式会社じゃないので、M&Aしにくい部分もありますが、これから、まだ地銀で破綻するところも出てくるでしょうし、チャンスはあると思います。ウチへ持ち込まれる案件はだいたい、「不良債権予備軍」ですから」

「そんな広野がチャンスを窺っている案件の目玉は「銀行」らしい。「預金金利がこれほど超低利のままなんて、海外では聞いたことがありません。預金者にはゼロ金利を強いながら、一方で自分たちの不良債権は処理していくなんて間違ってますよ。信金は株式会社じゃないので、M&Aしにくい部分もありますが、これから、まだ地銀で破綻するところも出てくるでしょうし、チャンスはあると思います。ウチへ持ち込まれる案件はだいたい、「不良債権予備軍」ですから」

「そんな広野がチャンスを窺っている案件の目玉は「銀行」らしい。「預金金利がこれほど超低利のままなんて、海外では聞いたことがありません。預金者にはゼロ金利を強いながら、一方で自分たちの不良債権は処理していくなんて間違ってますよ。信金は株式会社じゃないので、M&Aしにくい部分もありますが、これから、まだ地銀で破綻するところも出てくるでしょうし、チャンスはあると思います。ウチへ持ち込まれる案件はだいたい、「不良債権予備軍」ですから」

「そんな広野がチャンスを窺っている案件の目玉は「銀行」らしい。「預金金利がこれほど超低利のままなんて、海外では聞いたことがありません。預金者にはゼロ金利を強いながら、一方で自分たちの不良債権は処理していくなんて間違ってますよ。信金は株式会社じゃないので、M&Aしにくい部分もありますが、これから、まだ地銀で破綻するところも出てくるでしょうし、チャンスはあると思います。ウチへ持ち込まれる案件はだいたい、「不良債権予備軍」ですから」